

各分野で活躍する田原市出身の方を不定期でご紹介します。

### 尾川智子さん (東神戸町生まれ)

フリークライマー

●神戸小学校・東部中学校を卒業。少女時代から宇宙飛行士にあこがれる。早稲田大学理工学部にて在学中、誘われて参加した国体山岳競技で準優勝し、クライミングの魅力にひきこまれ、プロのアスリートを志す。2003年に「Asian X-games」のボルダリング部門で優勝し、アジアチャンピオンに輝く(2006年にも優勝)。その後、2005年全米大会で日本人女性として初優勝するなど、数々の世界大会で活躍するとともに、2008年には化粧品品のテレビCMにも起用され知名度が上昇。同年には日本人女性初となる「難度V12」の岩を制覇。現在、自然の岩場を舞台に、高難度の岩に挑戦中。▶公式ブログ <http://ogawatomoko.aspotajp/>

- ※1 ボルダリング=道具を一切使わずに岩や壁を登るスポーツ
- ※2 岩の難易度に応じV0～V16まである。V12は女性の世界トップに並ぶ



### 夢は、自分で見つけるもの

—子どものころのエピソードは？—

【尾川さん】家が兼業農家だったので、キャベツ畑でままごをしたり、ブロッコリーの出荷のお手伝いをしたりしていました。東ヶ谷海岸の砂浜や中州での遊びは楽しかったです。小学校では体操、中学校ではバレーボールをやっていました。もともとスポーツは好きでしたが、短距離走は苦手で、みんなが敬遠する長距離走をがんばるタイプでした。

—宇宙飛行士にあこがれていたそうですね

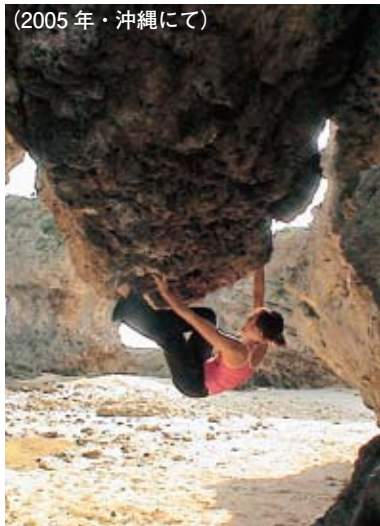
【尾川さん】毛利衛さんが宇宙に行ったことに影響を受けました。子どもながらに、募集要項を見て必要な勉強を想像したり、難しい科学雑誌を読んだりしていました。その雑誌に掲載されていた東京大学教授の記事を楽しみにしていたことから、純粋な理由で「東大を目指そう」と思い、勉強に励みました。でも、合格しませんでした。努力してもかなわないものがある、ということを実感しました。

—現在の活動を始めたきっかけは？—

【尾川さん】中学生のときに、「宇宙に近づける」という思いで富士山に登頂するなど、山に親しみがあったので、大学でワンダーフォーゲル部に入部しました。たまたま不足していた山岳競技のメンバーに誘われ、初めてクライミングに触れました。練習は厳しく、必死でした。「山登りを楽しむために始めたのに、なぜ苦しんで競技を？」という疑問もありましたが、最終的には国体で準優勝できました。その達成感が、私をフリークライミングの道へと向かわせたんだと思います。



▲尾川さんの手。指がまっすぐ伸びない



▲岩を登るには、体力だけでなく集中力とパズルを解くような戦略眼も必要

—「世界」を舞台に活躍されています

【尾川さん】ボルダリングでアジアチャンピオンにもなりましたが、最近は若い世代の台頭があり、体力でかなわなくなってきました。そこで、視点を変え、岩場というフィールドを舞台に、岩の難易度で「世界」を目指しているかと思えました。私が達成した「難度V12」は、相撲の番付に例えると男性を含めて「関脇」くらい。今は、「V13」に2年間ほどチャレンジしています。もちろん、「女性初」が目標ですが、ライバルを気にすると自分を見失ってしまいます。「勝負」ではなく、「登る」という本質的なことに、長い時間をかけて取り組んでいく。そうすることで、「オンリーワン」の自分らしさ、強さを手に入れたと思います。

—田原市の若い世代にメッセージを

【尾川さん】何事も、あきらめたら終わり。私は、宇宙飛行士の夢を貫けなかったことを少し後悔しています。でも、常に自分から夢や目標を見つけようと動いてきたからこそ、さまざまな出会いがあり、今の歩みにつながってきました。目標を達成するためにモチベーション(動機付け)を維持するのは大変ですが、それを考えることも自分の成長につながると思います。そして、一番大切な「自分が楽しむ」ということを、忘れないでください。